

A S Tにおける薬剤師の役割

抗菌薬適正使用チーム（Antimicrobial Stewardship Team、以下A S T）は、薬剤師・医師・臨床検査技師・看護師で構成され、感染症治療の早期モニタリングとフィードバック、微生物・臨床検査利用の適正化、抗菌薬適正使用に係る評価・教育・啓発など、抗菌薬適正使用の推進に向けて活動しています。

【抗菌薬使用量の把握】

各抗菌薬の使用量を月毎に割り出し、急激に使用量が増加した際には、使用方法や使用量に問題がないか確認し、適切な使用を行えるよう経時的に評価しています。

【抗菌薬の届け出制】

一部の抗菌薬（カルバペネム系、抗MRSA薬など）については、不適切に使用することで耐性菌が発現し、これまで効いていた抗菌薬が効かなくなる可能性があります。注意が必要です。そこで当院では、申請による届け出制としており、使用理由、予定期間を提出することとしています。

【院内研修会の開催】

抗菌薬の適正使用を目的とした感染対策研修会を年2回実施しており、医師・看護師・薬剤師・検査技師など様々な職種が講義を全職種に行っています。

【抗菌薬使用状況の把握】

耐性菌を増やさないためにも、週に1度抗菌薬が適正に使用されているか会議を行い、長期投与や不適切な使用があれば、抗菌薬の変更や中止を提案しています。薬剤師は対象患者をピックアップし提案内容を検討した上で会議に臨み他職種とディスカッションを行っています。



他職種と連携を図りながら耐性菌出現の防止など抗菌薬適正使用に薬の専門家として深く関わっています。